

1 観光振興基本計画の背景と目的

(1) 目的

- ・第2次笠間市観光振興基本計画（以下「前計画」）では、東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、インバウンド需要の拡大に関する施策に重点を置き、道の駅かさまやムラサキパークかさまなどの新たな観光交流拠点を整備するなど、観光地としての総合的な魅力向上を図ってきた。
- ・2020年（令和2年）に新型コロナウイルス感染症の拡大により、市内観光産業は大きな打撃を受けた。昨今では、全国旅行支援や外国人観光客に対する水際対策の緩和等が実施されるなど、観光産業は着実に回復方向へ進んでいる。今後は、人口減少・少子高齢化や個人の価値観の多様化などの社会全体を取り巻く動向や、コロナ禍で顕在化した観光産業の課題を踏まえながら、コロナ前へ復興させるだけでなく、観光産業が持続可能な形で発展を続けていけるよう観光振興を進める必要がある。
- ・このような背景から、観光消費の拡大と観光をきっかけとした地域経済の活性化により持続可能な観光都市を目指していくため、今後5年間の笠間市の観光振興に関する方針、基本的な方向性を明らかにする「第3次笠間市観光振興基本計画」を策定する。

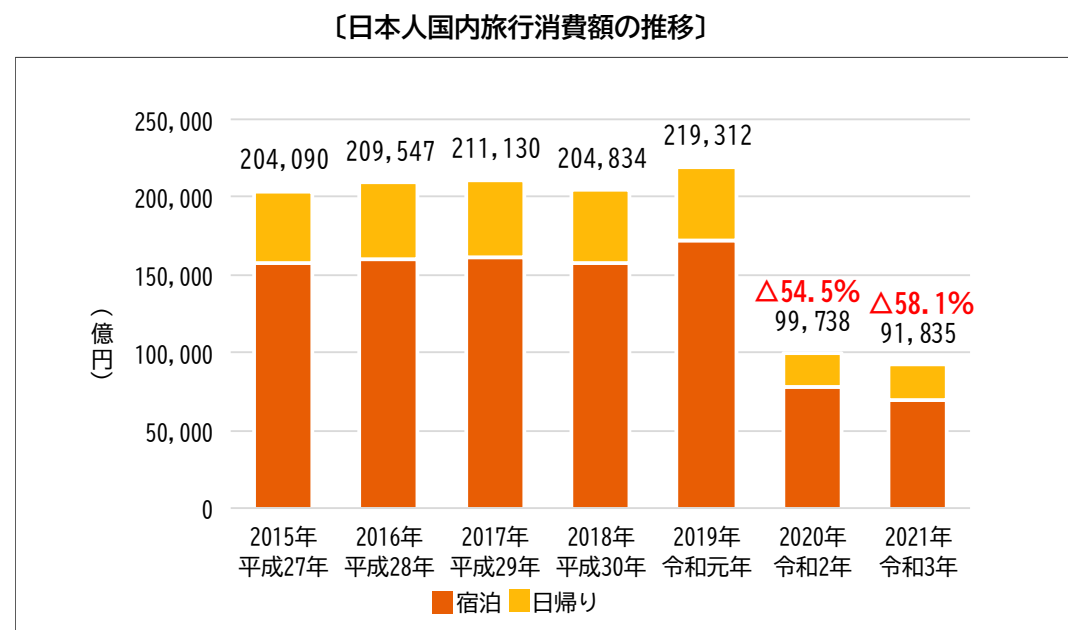
(2) 計画期間

令和5年度から令和9年度（5カ年）

2 観光を取り巻く現状

(1) 国における国内旅行消費額の推移

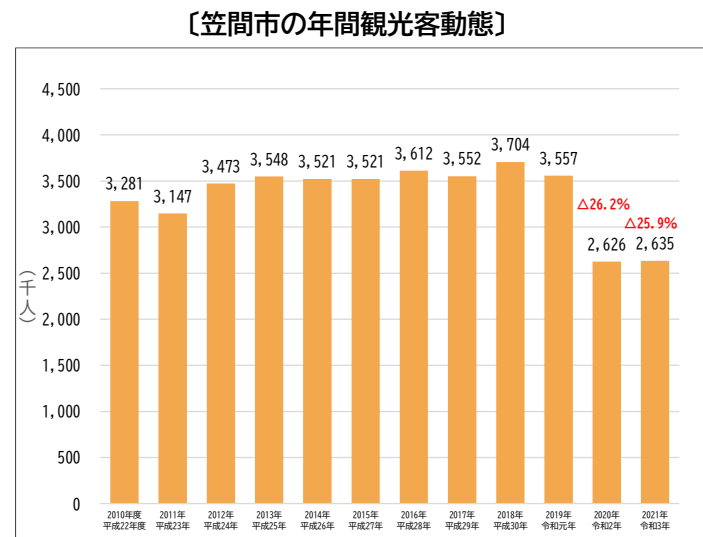
- ・令和2年以降の日本人国内旅行消費額は、コロナ禍以前（令和元年）と比べて大幅に減少している。



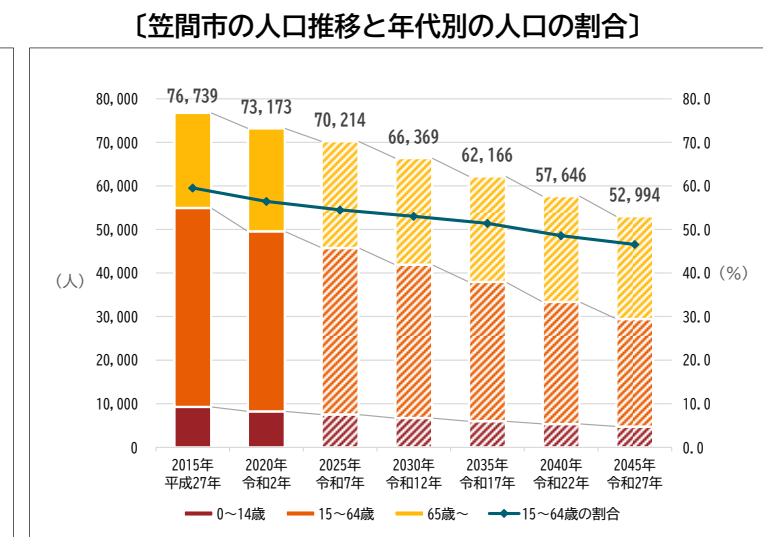
出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」
※赤字は令和元年比

(2) 笠間市における年間観光客・人口の推移

- ・コロナ禍の影響で令和2年以降の観光客数が減少したことから、観光消費が大きく減少し、市内観光産業にとって大きな打撃となっている。
- ・人口減少・少子高齢化が進行していることから、将来的な若手人材・後継者不足が懸念される。



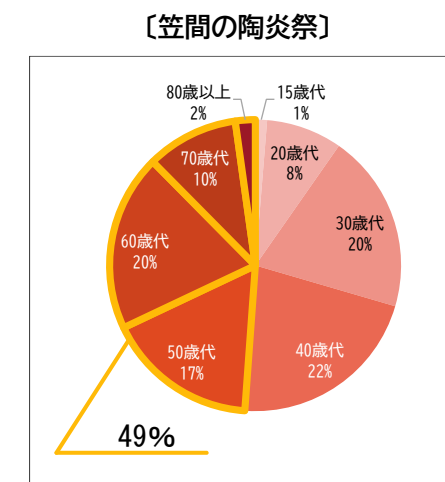
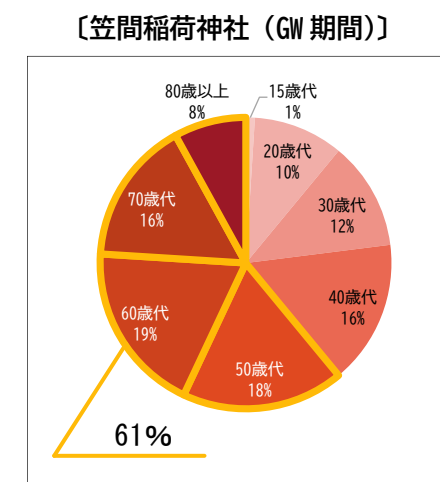
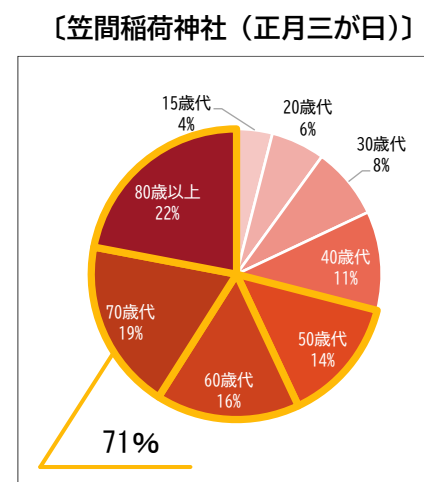
出典：茨城県「観光客動態調査」
※赤字は令和元年比



出典：総務省統計局「国勢調査」
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」

(3) 笠間市の観光客の年齢層

- ・笠間市内で観光入込客数の多い主な地点・イベントにおける、観光客の年齢構成を見ると、正月三が日での笠間稲荷神社の約7割、GW期間中の笠間稲荷神社の約6割、笠間の陶炎祭の約5割を、50歳以上の観光客が占めている。



出典：モバイル空間統計人口調査

※調査期間
 笠間稲荷神社（正月三が日）：2019年1月1日～2019年1月3日
 笠間稲荷神社（GW期間）：2019年4月27日～2019年5月6日
 笠間の陶炎祭：2019年4月29日～2019年5月5日

1. これまでの成果と課題

①第2次笠間市観光振興基本計画の総括

- ・「インバウンド誘客に係る取組」「市内観光拠点の整備」「特産品のブランド力強化」に係る取組等を実施
- ・新型コロナウイルス感染拡大により、観光誘客に係る施策を十分に実施出来ず

②これまでの主な成果

- ・大型スポーツイベントの開催とスポーツによる地域振興の推進
→オリンピックでのフランス選手団との交流、笠間スポーツコミッションの設立、笠間サイクルガイドの選任、スポーツチームとの連携によるPR等
- ・笠間台湾交流事務所を中心としたインバウンド誘客の推進
→外国人観光客数の増加
- ・新たな観光拠点の整備及び公民連携による魅力向上
→ムラサキパークかさま、道の駅かさま、エトワ笠間等の整備による新たな層の誘客
- ・特産品のブランド力向上に係る取組の推進
→笠間焼の海外販路拡大、「かさましこ」の日本遺産認定、「笠間の栗菓子文化」100年フード認定、笠間栗ファクトリー開設等

③笠間市の観光の強み

- ・首都圏から近く、日帰りでの観光が可能である
- ・歴史、芸術、文化、産業等の観光資源が豊富であり、多様な観光ニーズへの対応が可能である
- ・笠間での農泊・民泊を希望する観光客が増加しており、里山や農村風景、笠間での生活体験そのものが魅力的な観光資源となっている
- ・カフェやスポーツパークなど、若い世代からのニーズの高い観光拠点が増加している
- ・栗は全国1位の栽培面積と経営体数を誇り、「笠間の栗」としてのブランド力が向上している

④今後の主な課題

- ・観光客のニーズに合わせた観光資源の魅力向上
→コロナ禍を経て、観光客の観光ニーズが多様化していることから、新たな観光ニーズに対応した観光資源の磨き上げや魅力向上を図る
- ・インバウンド需要の回復に向けた受入体制の整備
→新型コロナによる制限の緩和により、外国人観光客数が回復しつつあることから、受入体制を強化し、インバウンド需要を積極的に取り込んでいく
- ・観光客の滞在時間の延長
→宿泊施設の立地促進や市内周遊を促す仕組みづくりにより、宿泊客の獲得や日帰り観光客の滞在時間延長を図る
- ・若年層や子育て世帯の誘客促進
→笠間市の観光客の年代別構成比は、50歳代以上の割合が高いことから、若年層の価値観やニーズへの対応や子どもと大人がともに楽しむことのできる観光コンテンツの提供により、若年層や子育て世帯の誘客を図る
- ・民間活力を導入した既存施設の整備および効果的な利活用
→民間事業者のノウハウ等を活用した観光振興が必要であることから、市内既存施設において民間活力の導入による魅力向上を図る
- ・観光人材の育成および関係人口の更なる拡大
→人口減少や少子高齢化により、観光の担い手不足が懸念されることから、観光人材の育成に取り組むとともに、観光振興を通じて笠間のファンを増やすことにより、関係人口（地域に多様な形で関わる人々）の拡大を図る
- ・観光関連組織の体制強化
→観光産業は裾野が広く、市民、事業者、観光関連団体等の参画と連携が必要であることから、関係者との連携体制の更なる強化を図る
- ・市部署間の横の連携
→戦略的・総合的な観光施策を推進するために、庁内の関係部署との横断的な連携を図る

2. 基本理念

地域観光産業の発展を通じ、
市民・観光客ともに笠間の魅力と豊かさを実感できる観光都市を目指す

3. 基本理念に基づく計画

基本的施策		
<p>1. 笠間らしい観光体験の提供によるリピーターづくり</p> <p>(1) 子どもも大人も楽しめる体験型・滞在型観光の充実</p> <p>(2) 利用者ニーズに対応した観光情報の提供</p>	<p>2. 観光産業の付加価値向上</p> <p>(1) 付加価値のある商品の創出</p> <p>(2) 観光資源の高付加価値化</p>	<p>3. 観光地としての持続可能性の向上</p> <p>(1) 地元意識の向上</p> <p>(2) 受入環境の整備</p>

重点施策

関係機関や団体等の推進体制を強化し、重点的に取り組む施策

笠間の強みを活かした観光商品の提供及び消費拡大

- ・「笠間の栗」を中心とした「食」とその生産地の魅力を伝えるPRの推進
- ・ブランド力が向上している「笠間の栗」の6次産業化による高付加価値化
- ・つつじまつりや菊まつりなどの歴史あるイベントを新たな発想で進化させることによる集客力の強化
- ・台湾交流事務所を中心とした観光客のニーズに合わせたインバウンド向け観光コンテンツ発信の強化
- ・特色ある自然を活かしたアウトドアスポーツの提供及びスポーツ関連事業者や地元プロスポーツチームとの連携による誘客促進

観光交流拠点の魅力向上と効果的な利活用

- ・「（一社）笠間スポーツコミッション」や「ムラサキパークかさま」との連携による全国規模のアーバンスポーツ大会の開催
- ・笠間芸術の森公園への新たなイベントの誘致等による年間を通じた誘客促進
- ・「エトワ笠間」を始めとする民間活力を導入した観光関連施設への新たな層の誘客促進
- ・観光関連施設の魅力向上を目指した改修及び整備

滞在時間延長の仕組みづくり

- ・農泊や民泊の受入体制の強化によるインバウンド誘客促進
- ・スポーツを目的とする来訪者に対する観光PRや観光消費を喚起する仕組みづくり等による市内観光への接続
- ・「道の駅かさま」のゲートウェイ機能の強化及び新たな二次交通の導入の検討による市内回遊性の向上
- ・宿泊施設の立地促進による市内宿泊客の誘客促進

4 実施体制

- ・本計画の基本理念を実現するためには、行政、市民、事業者、各種団体、県、周辺地域などが連携して取り組むことが必要である。
- ・各種施策の推進にあたっては、笠間観光協会をはじめ、観光関連団体、観光関連事業者とより一層の連携の強化を図るとともに、市民やNPO法人、ボランティア団体などとも連携しながら進める。
- ・今後、本計画の進行状況を定期的に確認するとともに、事業の展開や情報共有が円滑に行えるよう、観光関連事業者や関係団体が連携した観光プラットフォームの形成を行う。

〔計画の推進体制〕

